

平成16年度教師海外研修（派遣国：ガーナ共和国）実践報告書

1. タイトル 「みんな幸せ？ぼく、わたしは？」
 2. 氏名 渡邊 三知子
 学校名 島田市立島田第三小学校 担当教科 拠点校初任者担当（担当教科なし）
 3. 実践教科 総合的な学習 時間数 9時間～10時間
 4. 対象学年 3年生、5年生 対象人数 約30人のクラス3クラス
 5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

目の前の子供たちは、毎日の生活を何の苦勞もなく（物質面で）過ごしている。また、それが当たり前だとも思っていることが多い。物が豊かな反面、教室内では些細なことでけんかをしたり、思ってもいない言葉が口をついて飛び出し相手の心を傷付けてしまったりすることが往々にしてある。最近では、子供たちにとって家庭が安息の場なのにもかかわらず、親に気兼ねをし思うように自分を出せないでいる子も存在している。

多様な価値観の中で生活している子供たちに、「幸せ」とはお金や物さえあれば「幸せ」なのか、それだけではなく、もっと大切にしていかなければならないことがあるのではないかということガーナやその他の国の例を提示しながら考えることができることを目的にプログラムを考えた。

また、多くの気づきから、自分が大事にすること、できること、努力すること等をふりかえり、行動へとつながっていくことをねらいとした。

(2) 授業の構成案

時限・ねらい・テーマ	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：幸せってどんな時ねらい：今感じている幸せについて、自分の考えを持つ。	(1)自分の「幸せ観」をポストイットに書き出す。 (2)グループで分類していく。 (3)まとめられたものをグループ毎に発表し出し合う。	
2、3 限目 テーマ：ガーナを知る ねらい：ガーナ共和国を知り他の国に興味を持つ。	(1)白地図でガーナを当てて位置を確認していく。 (2)フォトランゲージでガーナ人の生活を推測していく。 (4)ガーナについて紹介。	(1)世界地図 (2)白地図 (3)ガーナの写真 (4)ガーナの民族衣装、楽器（資料1） (5)写真（資料2）
4 限目 テーマ：他国との違い ねらい：生活スタイルの違いから、自分たちと違う生活があることを知る。	(1)自分の生活の様子を円グラフに書き込んでいく。 (2)他国の子供たちの生活サイクルをみて自分たちの生活と比べる。	(1)円グラフとワークシート（資料3） (2)世界の子供たちの生活様式表（資料4）
5、6 限目 テーマ：他国の子供の様子を知る ねらい：他国の子供たちの様子を知り、幸せについて考えを持つ。	(1)「もし100人の村だったら」のビデオでスーダンの少年兵の様子を知る。 (2)「学校へ行きたい」のビデオで学校へ行けないネパールの子供の様子を知る。	(1)「もし100人の村だったら」のビデオ (2)「学校へ行きたい」のビデオ
7 時限目 テーマ：幸せランキング ねらい：幸せの価値観を知る		
8、9 限目 テーマ：幸せって？1 ねらい：幸せについてもう一度考えを深める。	(1)今までの世界の生活から意見交換をする。ポストイットで現す。 (2)自分の考えを持ち最初の「幸せ」観と比べる。	(1)1回目の「幸せ」をまとめた模造紙
10 限目 テーマ：考えから行動へ ねらい：今、私たちが大事にしなければならぬことを確認することができる。	(1)今、自分のできることを考えてみる。 (2)これから実行できることは？	

授業の詳細

【第1時限】 「みんな幸せ？ぼく・わたしは？」 幸せ観を認識する。

子供たちに「どんな時幸せって感じるのかな？」と聞くと、目を輝かせて「あるよ。」と元気に答えてくれた。「こずかいをたくさんもらった時」「テストで100点とった時」と即返ってきた。その考えをポストイットに個人で5つ書き出してもらうことにした。その後、自分の考えを言いながらカテゴリーにまとめていった。各グループでまとめ発表し、お互いの「幸せ観」を確認していくという授業を行った。発表された内容をまとめてみる。

3年年生の場合・・・お金がいっぱいあること、おいしい物が食べられること、ほしい物が手に入ること等が圧倒的に多かった。次にテレビ、ゲーム、旅行等の娯楽、と自分中心のものであった。しかし、その中でも少数であるが、長生き、命があること、たくさんの人と関わること等をあげていた。

5年生の場合・・・テストで100点とった時、試合で得点をあげた時、コンテストで賞を取った等、向上心をあらわしたものが多かった。次は、プレゼント、お金といったもの、そして、テレビやゲーム、少なかったのが友だちという時であった。

3、5年生共に自分自身に目がいていたことは共通していた。やはり発達段階から考えると5年生は目標が達成された時の喜びが多く、3年生では、自分が他者に何かをしてもらうことで幸せ観を感じていた。(資料1、2)

【2～3時限】 ガーナについて知ろう

ここでは、ガーナについて一方的に知らせるのではなく、自分たちで想像させて「どんな国だろうか。」という思いを持ち続けさせたい意図でフォトラゲージ(資料3)を試みた。各グループにガーナで撮った写真を渡し、何を話したり思ったりしているのか意見をグループで出し合いまとめていった。日頃の子供たちの知識と想像力で考えを出し合わせた。いろいろな思い方をしたことで楽しかったと感想が寄せられた。その後、自身が民族衣装(資料4)を着て、担任には、ドーキングドラムをたたいてもらい見よう見まねの踊りを踊って、子供たちの前で披露した。子供たちの歓声が忘れられない。その後、それぞれのグループが発表した後、ガーナについて位置、歴史、食べ物、住まい、ファッション、植物、観光等を紹介した。見たことのない世界を真剣に見入っていた。感想では、「アフリカは暑くって野生の動物がいっぱい、砂漠」といったイメージは崩れたようであった。また、想像もつかない習慣の違いがあることも少しわかってくれたようである。(資料5)

【4時限】 自分の生活と他国の子供たちの生活スタイルを比べてみる

まず、自分の1日の生活を振り返りタイムスケジュール表(資料6)に書き込んでいく作業をした。書き込みながら学校から帰宅しての時間の使い方がそれぞれ違うことや寝ることが遅いこと、塾や稽古事に通っていること等を友だちの書き込み作業の中で気づいていった。

そこで、4カ国の子供たちのタイムスケジュール(資料7)を紹介した。自分の生活と比較させることで、国が違えばその様式も違うことを知ってもらうためである。4カ国共に授業が午前中で終了することや勉強をよくやっていること、お祈りもあること等の違いを見つけ出し、自分たちとは違った生活を送っていることに気づいていった。振り返りでは、「授業が半日でいいな。」「寝るのが早い。僕たちはもっと遅くまで起きているのに、電気がないからだよね。」と感想を書き出した。電気がない生活。水が自由に使えない生活が、さらにクローズアップしていった。ゆっくりした生活もよいけれど、いろいろなことがで

きない大変さや日本が贅沢に思える等書かれていた。

【5～6時限】他国を知ることを通して幸せについて考えてみよう

この2時間では、「世界がもし100人の村だったら」のビデオから、主にスーダンの少年兵、ロシアのストリートチルドレンの様子を見せた。もう1時間は、ネパールの学校へ行けないパクバティちゃんのビデオ（資料8）を見せた。時間が限られていたので感想だけになってしまった。しかし、その感想に、自分たちには、両親がそろっていること。毎日ご飯が食べられること。学校へ行くことが当たり前だと思っていたことがそうではなかったこと等の感想が寄せられた。当たり前のことが当たり前ではない世界があることを映像から学んでいった。（資料9）

【7時限】幸せランキングをつけてみよう

途上国だけでなく世界各国の写真を見せていくことで、子どもたちの視野を広げていくことにした。フォトラゲージ（資料10）で「幸せランキング」を試みた。幸せ観は、人それぞれであり価値観は多様であってよいので、各グループに途上国と先進国の写真を混ぜた5枚を渡した。まずは、自身で幸せランキングをつける。それから、各グループでそれぞれの選んだ理由を言いながら各グループでの「幸せランキング」をつけていく。意見が分かれまとめられなかったグループは、話し合ったところまでを全体の前で発表していくという授業を行った。1位～3位にあげた理由には、物がいっぱいあることもあげられたが、家族がそろっていて笑顔がいっぱいや自然がいっぱいということもあげていった。子どもたちの心の中には、物より家族、友だち、健康といった地球持続の可能性を秘めた考え方があらわれてきて手応えがあった。

【8～9時限】幸せについて再度考えて、今できることは何かを考えてみよう

再度、「幸せ」について考えていることを1人5枚ポストイットにあげて、最初と同じやり方でまとめ発表させていった。各グループでまとめたものを1つにまとめさせると最初と最後とでは明らかに変わったことに子どもたちは気づいた。「最初は自分のことしか考えていなかったけれど、2回目の時は人のことを考えたものが多くあがっている。」と答えていたことから言える。（資料11）3年生は、家族、友だちが圧倒的に多くなった。また、平和、健康、笑顔、協力といったものもあがってきた。勿論、物やお金もあがったが大幅に減っていた。

【10時限目】9時限目での「幸せ」観を、「今自分で何ができるか。」を自身に置き換えて考えさせた。すると、学級のみんなが仲良く過ごすこと。けんかをしない。少しのことは我慢する。仲良くする等の思いがいっぱい出された。（資料11）

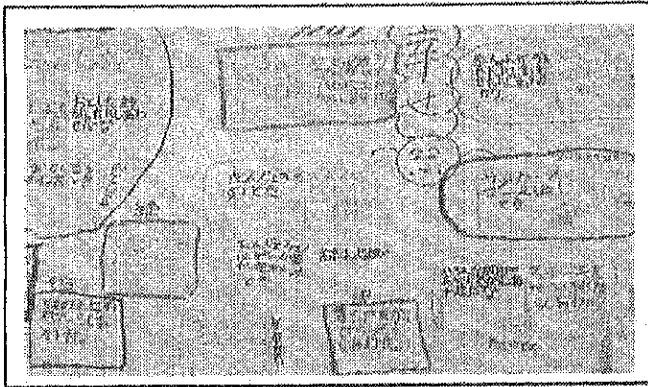
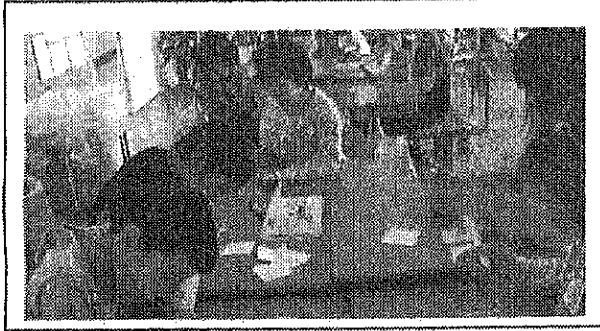
【成果と課題】

本年度は拠点校初任者担当ということもあって、4校の初任者学級の協力を得て実践してきた。まず、今回の研修で得たことをどのように子どもたちに伝えていくかを考えた。そこで、（3年生への指導）一番気をつけたことは、人権教育という視点で実施していくこと、先進国にない途上国のよさを前面に出していくことと同時に途上国の抱えている問題も含めていくことにした。実施する時間も交渉してからなので能率よく1時間を使っていく作業が続いた。しかし、国際理解教育が年1回のALTとの交流だけで留まっていた子どもたちには、より新鮮に心の中に落ちていったように思われる。1週間に一度の訪問で「次はどここの国について勉強するの？」「先生の授業はある？」と会うたびに心待ちしてくれていたことは、私にとっては大きな励みにもなった。授業を重ねていく過程で子どもたちの「幸せ」観の感じ方が変わっていったことも大きな成果だと思っている。また、3年

生には難しい内容であったが3年生、されど3年生でよく応えてくれた。3年生と5年生では、発達段階の違いはあるものの、「幸せ」についての思い方の変容は似た傾向があった。それは、1回目と2回目の「幸せ」について比較からつかめた。このプログラムは中学年でも可能であることを実感した。

課題は、気づきから築きへと、個々が行動にうつしていく段階の見取りが難しいと思った。

《資料1、2》「幸せについて」



ふりかえりカード 3年2組 組名前 []

安心感 (おしゃべりして) 2人3人で話したのか?	() A B C D
自信 (おしゃべりして) 2人3人で話したのか?	() A B C D
自分の考えを多く表現したのか?	() A B C D
友だちと協力して作業を続けることができたのか?	() A B C D

(1) わたしがわらわらしたのか?
 わたしがわらわらしたのか?
 おしゃべりしたのか?

(2) わたしがわらわらしたのか?
 ほかに友だちとわらわらしたのか?
 わたしと友だちとわらわらしたのか?

(3) わたしがわらわらしたのか?
 わたしはおおききかたえは
 おしゃべりしたのか?
 みんな大きなこえでは、おしゃべり
 してわらわらしたのか?

《資料3》フィットラゲージで使ったガーナの写真と感想

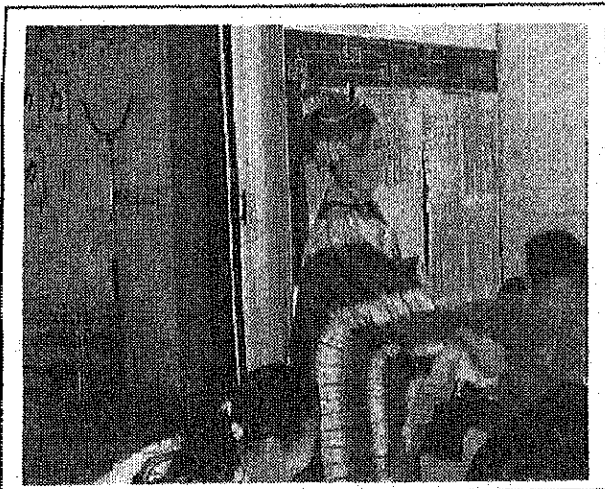


ふりかえりカード 3年2組 組名前 []

自分の名前がわかったのか?	() A B C D
自分の考えを多く表現したのか?	() A B C D
友だちの考えを多く聞けたのか?	() A B C D
友だちと協力して作業を自分たちでやり上げたのか?	() A B C D

わたしはいろいろおしゃべりしたのか?
 おしゃべりしたのか?
 いろいろなことをおしゃべりしたのか?
 おしゃべりしたのか?
 おしゃべりしたのか?
 おしゃべりしたのか?
 おしゃべりしたのか?

《資料4、5》民族衣装でガーナについて



ふりかえりカード 5年2組 組名前 []

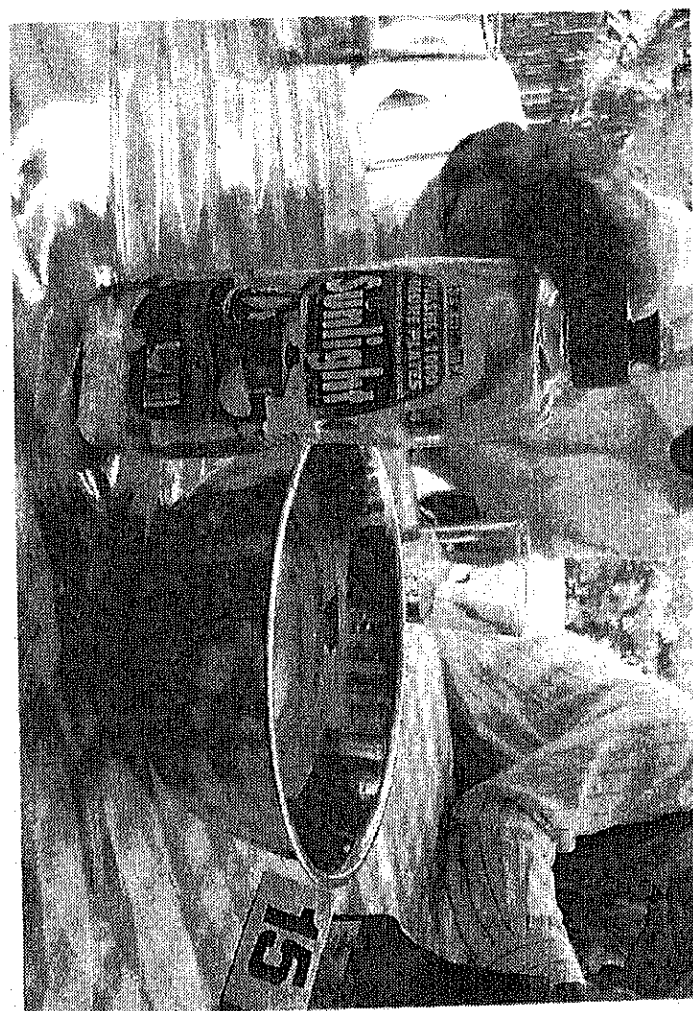
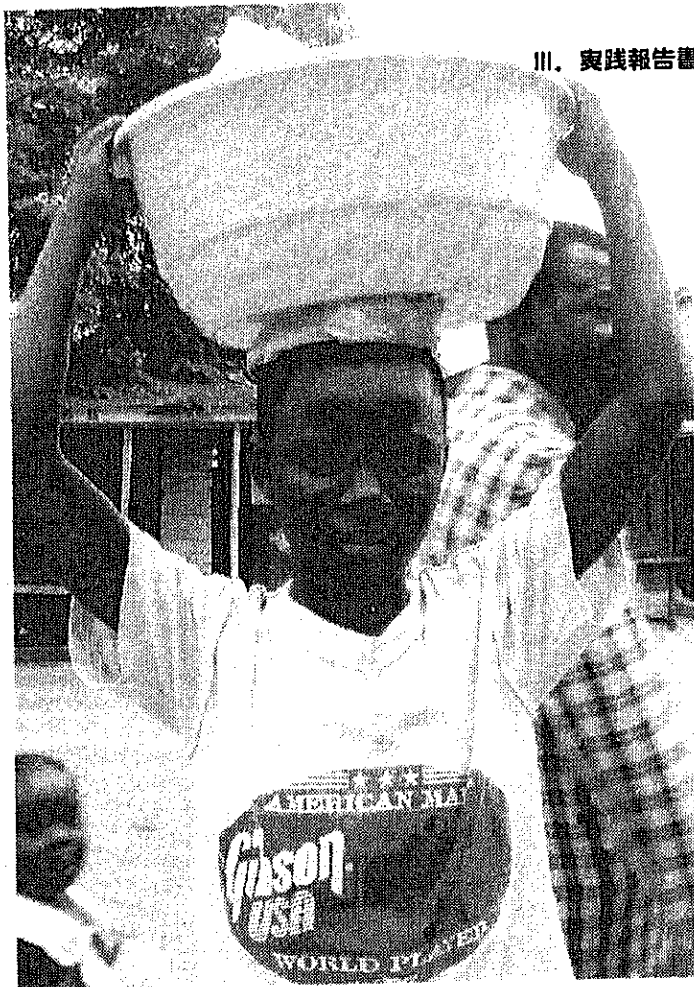
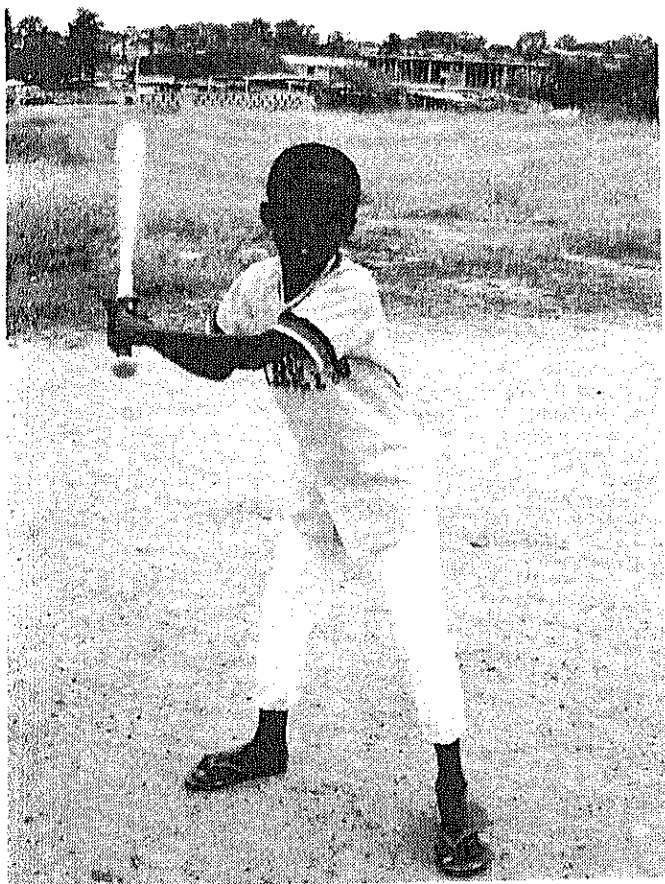
1. 自分や友だちの考えを多く表現したのか?	() A B C D
2. 友だちの考えを多く聞けたのか?	() A B C D
3. 友だちと協力して作業を自分たちでやり上げたのか?	() A B C D

自分や友だちの考えを多く表現したのか?
 友だちの考えを多く聞けたのか?
 友だちと協力して作業を自分たちでやり上げたのか?
 自分や友だちの考えを多く表現したのか?
 友だちの考えを多く聞けたのか?
 友だちと協力して作業を自分たちでやり上げたのか?

ふりかえりカード 5年2組 組名前 []

1. 自分や友だちの考えを多く表現したのか?	() A B C D
2. 友だちの考えを多く聞けたのか?	() A B C D
3. 友だちと協力して作業を自分たちでやり上げたのか?	() A B C D

自分や友だちの考えを多く表現したのか?
 友だちの考えを多く聞けたのか?
 友だちと協力して作業を自分たちでやり上げたのか?
 自分や友だちの考えを多く表現したのか?
 友だちの考えを多く聞けたのか?
 友だちと協力して作業を自分たちでやり上げたのか?



平成 16 年度 教師海外研修 (派遣国：マラウイ) 実践報告書

1. タイトル マラウイってどんな国？～地球のどこかでがんばる子どもたち～2. 氏名 今井 由美子学校名 金沢市立大徳小学校 担当教科 特別支援学級担任3. 実践教科 主に総合的学習, 低学年は道徳・学活 時間数 各学年 1～2 時間

4. 対象学年・人数	1年 32人	2年 88人
	3年 138人	5年 40人
	6年 99人	

5. カリキュラム案(1) 実践の目的

今回の研修の目的の一つは、開発教育のための教材作りである。自分の授業のためだけでなく、たくさんの先生が利用できるようなわかりやすい教材を作ることに帰国後取り組んできた。というのも、今年度は、特殊学級を担当することになったため、自分のクラスで授業をすることが難しいという問題があった。思うような実践ができない分単元構成に費やす時間を教材作りに代えることで研修の成果の実践にしようと考えてきた。そして校内では、作った教材を利用して、できるだけたくさんの学年で授業をさせてもらうことにした。ただ、時数の関係や受け持ちでない学年ということで、どうしてもゲスト・ティーチャー的な関わり方になり、いろいろな活動を入れた合科的な展開ができなかったことが、残念な面である。それぞれの学年に1回の授業という関わりであったが、児童たちにとっては、はじめて知るアフリカの子どもたちのようすが映像を通して身近なものとなり、有意義な内容になったのではないかと思う。高学年から低学年まで、段階に応じたねらいで授業を構成していくこともまた、教材を準備する上で勉強になった。低学年では、アフリカという未知の国を知り、日本との違いに驚いたり、動物や楽器などの興味のある素材から異文化理解へとつなげたりしたいと考えた。高学年では、自分たちの生活を振り返り、世界の貧困の問題に気づくところまで意識させたいと考えた。そのためには、その土台となる、過酷な環境の中でも一生懸命生きている子どもたちの姿をぜひ伝えたいと思う。

今回作成したDVDビデオやマラウイのホームページを研修のメンバーのみなさんや他校の先生にも活用していただけたことでも、目的の一つが達成できたと思っている。

(2) 授業の構成案

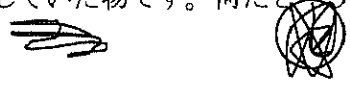
時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>6年 1時</p> <p>テーマ：世界の人々と共に</p> <p>ねらい：マラウイの子どもたちの暮らしや協力隊の活動を知り、世界に目をむける。</p>	<p>(1) アフリカについて知っていることを話す</p> <p>(2) マラウイの子どもたちの宝物を想像する</p> <p>(3) VTRでマラウイの暮らしや協力隊の活動を知る。</p> <p>(4) 感想を話し合う。</p>	<p>(1) 地図</p> <p>(2) 手作りボール</p> <p>(3) DVD—ビデオ ホームページ資料</p>
<p>5年 2時</p> <p>テーマ：世界の人々と共に</p> <p>ねらい：マラウイの子どもたちの暮らしを知り、体験的学習を通して富の分配の不均衡に気づく。</p>	<p>(1) アフリカについて知っていることを話す</p> <p>(2) マラウイの子どもたちの宝物を想像する</p> <p>(3) VTRでマラウイの暮らしや協力隊の活動を知る。</p> <p>(4) お菓子の分け方から、富の分配の不公平さを実感し、共に生きることの大切さに気づかせる</p>	<p>(1) 地図</p> <p>(2) 手作りボール</p> <p>(3) DVD—ビデオ ホームページ資料</p> <p>(4) お菓子</p>
<p>3年 2時</p> <p>テーマ：世界の人々と共に</p> <p>ねらい：マラウイやカンボジアの子どもたちが過酷な環境の中でも一生懸命生きるようすを知る</p>	<p>(1) アフリカについて知っていることを話す</p> <p>(2) マラウイの子どもたちの宝物を想像する</p> <p>(3) VTRでマラウイの子どもたちの暮らしを知る。</p> <p>(4) 自分たちの生活をふりかえって考えさせる</p>	<p>(1) 地図</p> <p>(2) 手作りボール</p> <p>(3) DVD—ビデオ ホームページ資料</p>
<p>2年 2時</p> <p>テーマ：アフリカの暮らしを知ろう</p> <p>ねらい：アフリカのよさや日本との違いに気づき、関心を持つ</p>	<p>(1) アフリカについて知っていることを話す</p> <p>(2) マラウイの子どもたちの宝物を想像する</p> <p>(3) VTRでマラウイの子どもたちの暮らしを知る。</p> <p>(4) 楽器にふれたり、岩塩を味わったりして手作りの生活を想像する。</p>	<p>(1) 地図</p> <p>(2) 手作りボール</p> <p>(3) DVD—ビデオ ホームページ資料</p> <p>(4) マラウイの楽器 岩塩</p>
<p>1年 1時</p> <p>テーマ：アフリカの暮らしを知ろう</p> <p>ねらい：アフリカのよさや日本との違いに気づき、関心を持つ</p>	<p>(1) マラウイの子どもたちの宝物を想像する</p> <p>(2) VTRでマラウイの子どもたちの暮らしを知る。</p> <p>(3) 動物や自然のようすを知る。</p>	<p>(1) 地図</p> <p>(2) 手作りボール</p> <p>(3) DVD—ビデオ ホームページ資料</p>

6. 授業の詳細

6年 総合的な学習

テーマ 世界の人々と共に

活動内容

学習活動	主な発問	児童の意識	支援と評価
	<p>・アフリカやマラウイについて知っていることがあるかな。(地図, 国名, 気候, 文化, 人物など)</p> <p>もっとアフリカについて知ろう。</p> <p>これは, マラウイの子たちが, 自慢して大事にしていた物です。何だと思おう?</p>  <p>答えは・・・</p> <p>(ゴミ袋で作ったサッカーボールとゴム飛び)</p> <p>マラウイの子どもたちの写真やVTRを紹介する</p> <p>感想を話し合う。</p> <p>感じたことを素直に 疑問を大切に</p> <p>マラウイでの日本の援助活動についてVTRを見ましょう。JICAの職員の方に質問をしよう。</p> <p>振り返りをする(ワークシート)</p>	<p>・暑い国だね</p> <p>・動物がいっぱいいるよ</p> <p>・こわい感じがする</p> <p>・貧しい国だって聞いたよ。</p> <p>・アフリカにはこんなにたくさん国があるのにぜんぜん知らないな。</p> <p>・何に使うんだろう。</p> <p>・蜂の巣みたいだ</p> <p>・ボール?おもちゃかな。</p> <p>・手作りなんだね。</p> <p>・とっても楽しそうな顔だね。</p> <p>・遊びは私たちとおんなじだね。</p> <p>・マラウイには物がなくて大変だな。</p> <p>・どうしてないの?</p> <p>・どんなくらしをしているのかな。もっと知りたいな。</p>	<p>身の回りの中からアフリカに関する情報をみつけ未知な部分に気づく。</p> <p>・アフリカの子どもにはどんなものが大事か、想像力を働かせている。</p> <p>・貧しさに気づかせると同時に、かわいそうだけで終わらず、人々の工夫やたくましさを感じ、自分たちと比較することで何かもやもやした気持ちを感じさせる。</p>

ゴミ袋で作ったサッカーボール



手作りのおもちゃ



6年生は総合的な学習の単元全体で国際理解にとりくんでいる。これまでに、台湾の小学校とテレビ会議で交流授業を行ったり、いろいろな国からの留学生やゲストティーチャーと交流をし

たりしてきた。貧しい国々についてのある程度の知識もあり、授業後の感想で、人権という観点から、なぜ人間は平等にらしくていけないのかという疑問を持つ児童もいた。マラウイについての授業はこれら国際理解の単元の一部であり、この後1月に全校児童に呼びかけてユニセフ・中越地震・スマトラ沖地震への募金活動につなげて行った。

5年 総合的学習

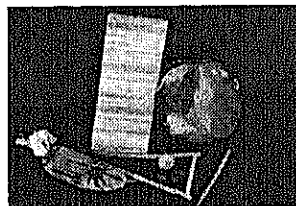
ちょうどこのころ、ユニセフから世界の児童の二人に一人が、学校に行けず働いているか、栄養不足か、または戦争に巻きこまれている状況にあるという報告が出された。このことについて具体的に知るために、平和ではあるが日本とは比べ物にならない貧しさの中で暮らすマラウイの子どもたちのようすを紹介した。子どもたちは、自分たちの豊か過ぎる生活に気づいたようである。また、協力隊の活動を紹介することで日本の援助や募金の意味がはじめてわかったという子もいた。

3年 総合的学習

音楽の授業で交響詩「ジャングル大帝」を学習している子どもたちに、アフリカの民族楽器や、野生動物のビデオを紹介した。アフリカは素朴で自然がいっぱいというイメージを抱き、マラウイの授業も楽しみにしていた。ビデオの「ガソリンスタンドで働く子どもたち」を見せた。自分たちと同じ3年生の子が物売りをして働いているという事実から驚きや悲しみ、そして頑張っている子どもたちに尊敬や励ましの気持ちを感じたようである。



ガソリンスタンドで働く子どもたち



ヤギの皮の太鼓・木の実のマラカス等の民族楽器

2年 道徳（国際理解）

低学年の授業で気をつけたことは、とにかくマラウイのいいところを知ってもらおうということだった。子ども達の好きな遊びや動物、民族楽器の紹介、そして食べ物などに触れたりして感じてもらうと思った。とても素直ないい子達なのだが、ひとり、ビデオを見ながら「きたねえ。」と何度も大声で言う子がいて、内心「まずいなあ、この雰囲気は。」とあせってしまった。楽器に触れる活動の時にまた「きたねえ。」と言うので、「うん。汚かったらさわらんでもいいよ。でも、きたないって言われたら、こんなにがんばっているマラウイの子がかわいそうだな。」という、まわりの子どもたち全員がうなずいてくれた。それまで子どもたちにマイナスの印象を与えることになったかと心配していたが、かえってこのことで教室の雰囲気がその子を含めて一つになった。おみやげに市場で買って来た岩塩のかけらをひとつぶずつみんなでなめて、授業を終えた。

1年 学活（国際理解）

マラウイの学校訪問の時に1年生の絵を現地の学生に紹介した。その時のビデオを見せて、マ

ラウイでは紙やクレヨンがとても貴重でみんな大事に使っていることなどを話した。1年生たちは、子どもたちがおもちゃを自分たちで作ることや、お母さんが頭の上に大きなバケツをのせて水を運んでいることなどに素直に感心していた。そして、ビデオの中の子どもたちに手紙を出したいと言って、もう友だちになったような気分で手紙を書いてくれた。

児童の感想より

1年

マラウイのおかあさんたちは、あたまに水をのせて、あるくのがすごいですね。いちどもゆきがふらなくていつもあついでしょ。日本のくには、はる、なつ、あき、ふゆで、ふゆには、ゆきがふります。マラウイの人たちいいらしをしてね。

てづくりのサッカーボールすごいね。スーパーのふくろでごむとびも、にほんの人、おもいつかないよ。とってもすごいよ。

2年

すごくたのしかってマラウイのこともいっぱいあったからよかったとおもいました。あとサッカーボールがうってないからぞうきんでつくって手作りなんてすごいです。マラウイの人はすごいですね。じめんをほって水をだすなんてすごいです。しおがすごくおいしかったです。

マラウイの子どもたちは、はだしであるているのがわかりました。みたことないがつきがありました。さわったらいいおとでした。

マラウイではタクシーがじてん車でびっくりしました。子どもたちのボールとかあそぶものはリサイクルしてすごいと思いました。日本のしおは細かくしてあります。マラウイのしおはそんなにこまかなくて大きかったです。野せいのどうぶつも見られたのでとてもよかったです。

日本とすごくちがう生活をしているんだな—と思いました。それにでんきやガスや水がなくてふべんなことは、いっぱいあるのかないのかはっきり分かりました。じぶんでおもちゃやないものも手作りすることも、お話をきいて分かりました。マラウイのしおはすごく日本とあじがちがっていました。

3年

マラウイの子どもたちはとっても楽しそうにくらしているんだな—と思いました。でも、電気もガスもつかわないで生活できるなんて、びっくりしたことがたくさんありました。今井先生のビデオを見せてもらってあまりの感動に、大人になったらマラウイに行きたいと思いました。世界ではつらいくらしやかなしいくらしをしている子どもたちがたくさんいるんだな。と、少しか

しい気持ちになりました。そんな子たちのために、これからは物をだいにします。

5年

わたしは、「マラウイの人は強いなあ。」と思いました。はだしで外を歩けるなんて、私には無理です。それに、小3の子が働くなんで、日本ではそんなことないと思います。マラウイのことが少し分かると、日本がぜいたくな気が少ししました。マラウイの子どもたちに紙をあげたらよろこぶなら、プレゼントしたいです。

私は、マラウイにすむ人たちをビデオで見て世界の国が平等じゃないことを知りました。また、木を切って売っているのが砂漠になってきているのはじめて知りました。今、6年生が世界の困っている子どもたちに募金をしています。だからそれにも募金できたらいいなと思いました。海外青年協力隊のように貧しい人たちをたすけて世界を平等にしたいと思いました。

6年

アフリカに日本の人がいろいろ教えに行っていて、そういうのは国と国で助け合っているから、すてきだと思いました。子どもは自分で物を売ってくらして、自分でおもちゃも作っちゃうからすごいと思います。私たち日本の子どもはすごくめぐまれていると思いました。子どもたちの親もきつと働いているんだと思うけど、それだけのお金じゃどうして食べられなくて、子どもが働かなければならないのだろう。

お金も食べ物もあまりないけど、自分たちで作ったおもちゃがありました。正直いうと、あれはおもちゃなの？と思ったけど、あの子たちは「大切な宝物だよ。」と言ってニコニコしていたそうです。あの子たちは私から見ると幸福とは言えないけど、あの子たちなりの工夫とか、明るさなどが、あの笑顔を作っているなあと思いました。でも、少し悲しいのがまんしているのではないかなあと思って、かわいそうでした。

アフリカの子はいつも危険にさらされている。それに比べたら日本の子はとともゆうふくだ。このゆうふくを人にわけてあげたい。どうして、世界は平等ではないのだろう。

7. 所感

1年生から6年生までだいたい同じ教材を使ってねらいを少しずつ変えながら授業をしていった。児童の感想を読むことでどれくらい理解されたかがわかり、毎回反省することが多かった。特に限られた時間内の授業では、あまり盛りだくさんな内容では正しく伝わらなかつたりすることもあり、ポイントを絞ることが大事であると感じた。子どもたちは外国のことへの興味・関心が高く、真剣に話を聞いてくれた。また、映像の効果は大きく、作った教材は大いに活用できた。限られた時間の中ではあるが、できるだけ体験的活動を取り入れることが大切であるということも感じた。JICAの研修で得た様々な活動を今後も取り入れて来年度も実践を深めたい。

8. 資料

URL <http://www.kanazawa-city.ed.jp/daitoku-e> 金沢市立大徳小学校HP. 「マラウイ情報」

ベネッセ社の「たねっとランド」で作成したため、このURLでしかアップロードできませんでした。

DVD・video (13編 全41分)

学校



野生動物たち リボンデ国立公園



魚の養殖



ロビの市場



子どもたち



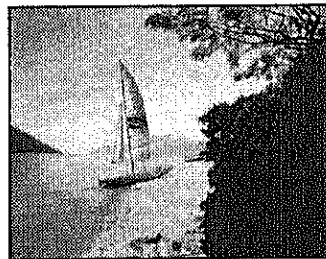
ロビの丘 早朝登山



小規模灌漑技術の援助



ケープ・マクレア (世界遺産)



平成16年度 教師海外研修（派遣国：マラウイ共和国）実践報告書

1. タイトル 『世界の国のことを知ろう』・『マラウイ！こんな国もあるんだよ』
『世界のことを知ってぼく・わたしが変わってきたこと』
2. 氏名 岩 脇 達 典
学校名 八尾町立杉原小学校 担当学年 第4学年
3. 実践教科 総合的な学習の時間及び道徳 時間数 7時間
(総合的な学習の時間6時間・道徳1時間)
その他： 10 回× 0.2時間
(朝学習の時間2週間分)
4. 対象学年 第4学年 対象人数 32人
5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・ ゲスト・ティーチャーとの交流や写真・VTRの視聴から感じたことを話し合い、外国の人々や文化に関心をもとうとする心を育てる。
- ・ 体験を通してマラウイ国の人々の生活や文化に触れ、世界中のいろいろな国を知ろうとするきっかけをもつ。

(2) 授業の構成案

時限	ねらい	方法・内容	使用教材
1	世界の人々や文化に対して興味を持たせる。	・世界中のいろいろな国の人々の生活の様子について、フォトランゲージを通して感じたことや思ったことを自由に発表する。	・世界24カ国の写真
2	アダム・ビグロー氏(アメリカ合衆国出身)に対して関心をもつ	・ゲスト・ティーチャーを迎え、祖国アメリカ合衆国での生活の様子や人々の考え方、習慣を知り、感じたことを話し合う。	・ゲスト・ティーチャー(アダム・ビグロー氏)
3	シンガポールと近隣の東南アジア諸国の開発途上にある国々に対しても目を向ける	・実践者の体験談を聞いたり、写真、VTR、民芸品、民族衣装などを通して、アメリカ合衆国とは異なる国々の人々の生活や文化があることを知る。 ・国による様々な違いがあることに対して気付いたことを自由に発表し合う。	・3年間に撮影した東南アジア諸国の写真とVTR ・東南アジアのおもちゃ ・マレー系、中国系、インド系の各民族衣装
4・5	体験も通しながら、マラウイの人々や文化に興味を持つ	・写真やVTRを通して、アフリカ・マラウイ国の自然や人々について知る。 ・頭上の水運び体験を物を使って行う。 ・手で食べる体験をする。 以上の活動の感想を話し合う。	・マラウイの写真、VTR ・物運びの道具 ・食事(体験用)
6	世界の人々と自分たち日本人との共通点に気付く(道徳・国際理解)	・約2週間にわたり、世界の人々や文化などについて学習してきた自分の心の中で、変化してしてきたことやより強くなってきた思いについて、学級のみんなで体験してきたことによる互いの気持ちを発表し共感し合う。 『自分たちとかわらないんだ』 『こんなことを大切にしているんだ』 『みんな頑張っているんだ』	・それまでの学習で蓄積された写真、感想文など
7	世界の国々に対して興味・関心を持ち、さらに自分から知ろうとする	・学習のまとめを行い、これから自分がやってみたいことについて発表し合う。 『もっとアフリカのことについて調べたい』 『日本と世界の国々との違い、同じところは？もっと知りたい』 『自分だけの世界事典をつくりたい』 『外国の子供と仲良くなりしたい』	・それまでの学習で蓄積された写真、感想文など

6. 授業実践の詳細

(マラウイ関連のみ 第4時・5時の概要 Tは教師、Cは児童 授業記録の一部を抜粋)

○ ねらい 「体験も通しながら、マラウイの人々や文化に興味を持つ」

(第4時 マラウイの写真やVTRを通して、マラウイの国や人々に関心を持つ)

T：マラウイは、どこにあるのだろうか。国の位置は、ここだよ・・・①・②

C：今度はアフリカだね。アメリカ合衆国やシンガポールとはずいぶん違うのかな。
動物がいっぱいいるって聞くよ。

T：確かに動物もいる。・・・③

T：住んでいる人々の写真だよ。・・・④

T：家は、こんな感じ。・・・⑤

C：みんな、はだの色が黒いんだね。アメリカ合衆国やシンガポール、日本の家とは全然違うね。

C：どんなふうに一日をすごしているのかな？

T：子供たちは、もちろん学校に通っているんだよ。・・・⑥

T：でも、お手伝いもいっぱいしている。・・・⑦

T：マラウイの子供たちは頭の上に上手に物をのせて運ぶんだよ。・・・⑧

T：子供たちは、自分たちで遊び道具を作るんだよ。これは何だと思う？サッカーボールなんだよ。

T：女の子たちは、ビニール袋をつないでゴム跳びのような遊びをして楽しくすごしているんだ。・・・⑨

T：ご飯は手で食べるんだよ。・・・⑩

C：ぼくたちもいろいろやってみたいな。

(第5時 頭上の物運び体験&手で食べる体験)

T：みんながやってみたいと思った物の中で一番人気が高かったのが、頭の上に物をのせて運ぶことだったね。実際にやってみよう・・・⑪

C：実際にやってみると大変だね。落としてしまいそうだし、とても重たいなあ。

C：毎日こんなふうに水くみを、しかも何回もしているなんてすごいな。

C：マラウイの子供たちは、体が強いのかな。そして働き者なんだろうね。

(手をしっかりと洗って教室へ移動した後)

T：次にみんながやってみたいと思ったのが、手で食べることだったね。さっそくやってみよう。

C：うわあ。食べ物の感じがよくわかる。

C：最初は変だと思っていたけれど、だんだん変だとは思わなくなってきたよ。

C：手で食べると、食べるものによってはかえって食べやすいものもあるんだね。

C：マラウイの人たちに少し近づいたような気持ちがするなあ。

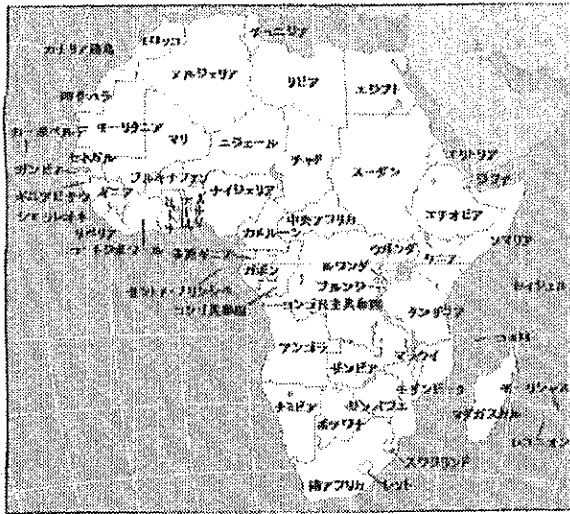
C：私は日本人だから、やっぱり箸の方が食べやすくていいかな。同じように、マラウイの人たちは手で食べるのに慣れているのだと思う。

T：なるほど。みんなそれぞれいろいろなことを考えることができたようだね。みんなの意見をまとめてみると、こんなふうになるね。・・・⑫

7. 授業実践を通しての所感・反省点・今後の改善など

- ・ 普段からあまり世界に目を向けない子供たちへ、いきなりマラウイ国の人々や文化に触れさせるのではなく、子供たちが名前をよく知っているアメリカ合衆国や、実践者の3年間滞在したシンガポールやその近隣諸国の様子を、写真やVTRを通して伝えたことは、世界の国々に対して興味をもたせるのに大変効果的であった。子供たちの意識が自然な感じで、「もっといろいろな国のことを知りたい」というところへ向かっていったので、マラウイ国の学習へと入りやすかった。
- ・ 子供たちの体験活動として、頭上に物を乗せて運ぶことと、箸などを使わず素手で食事をするを選んだが、楽しみながら新しい発見ができた。子供たちにとって、アフリカで生きる人々に関心をもつきっかけとなった。
- ・ 発達段階を考慮し、第一に楽しみながら学習活動に取り組むことができることを念頭に置いた。約2週間に渡り、総合的な学習の時間と道徳とを連携させ、体験活動を取り入れ、朝学習の時間までも活用し、関連の掲示物により教室環境も整えていながら、どっぷりと世界のことに関心・興味を持つことができるように工夫したつもりであったが、期間が短すぎたため、疑問に思ったりもっと詳しく自分たちの力で調べてみようとする気持ちにさせたりすることが難しかった。長期の学習計画が必要だと感じた。
- ・ 「とやま国際交流センター」より、ゲスト・ティーチャーとして、アダム・ビグロー氏を招聘。アメリカ合衆国の人々や生活の様子について語ってもらった。生の声は何物にも代え難い効果的な教材となった。同様にマラウイについての学習の場面では、さすがにマラウイ人を直接招聘することは困難であろうが、マラウイ国派遣の協力隊OBは北陸地区にもいらっしゃるので来校依頼をお願いし、出前講座を開いていただくなどの工夫もできたように思う。
- ・ 2学級の学年であり、もう一方の学級の子供たちにも効果的な学習を進めていきたかったが、同じようなレベルで伝えたり考えさせたりするための工夫はどのようにすればよいか非常に悩みながら、自分が学年の中でリーダーシップをとりながら学習を進めていった。特にマラウイの国のこととなると、実際にいろいろな多くのことを現地滞在により見聞してきた自分ともう一人の教師との間には、意欲その他の面でも大きな開きがあった。

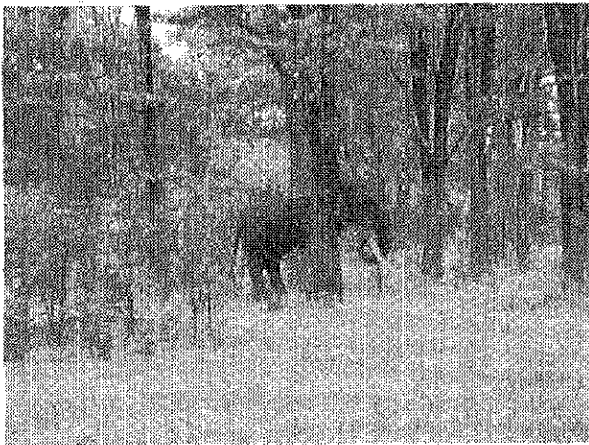
8. 関連資料



① マラウイは、赤道よりも南のアフリカにあります。



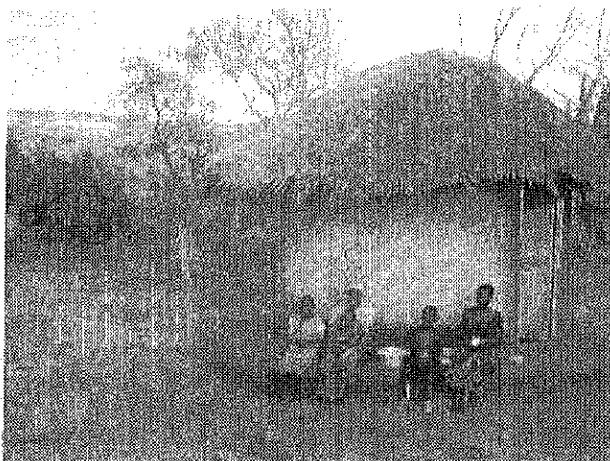
② マラウイは南北に細長く、大きなマラウイ湖があります。



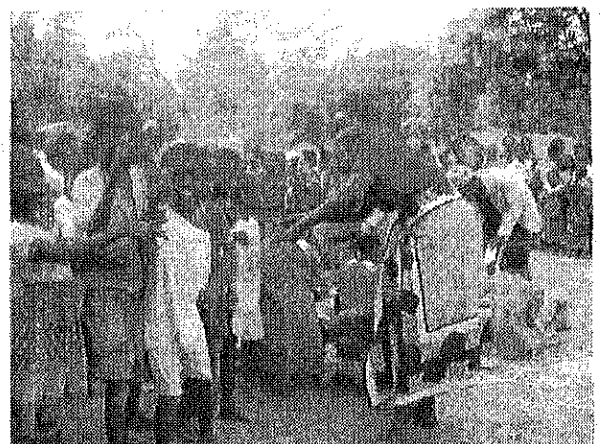
③ マラウイには、ゾウなどの野生動物もいます。



④ マラウイには、黒い肌の人々が仲良く住んでいます。



⑤ 人々の家のほとんどは、土と草でできています。



⑥ マラウイの小学校の様子です。青い服を着た人が先生です。



⑦ マラウイの子供たちは、家の手
伝いをしっかりとがんばります。



⑧ 子供たちは、頭の上に物を
のせて運ぶのも上手です。



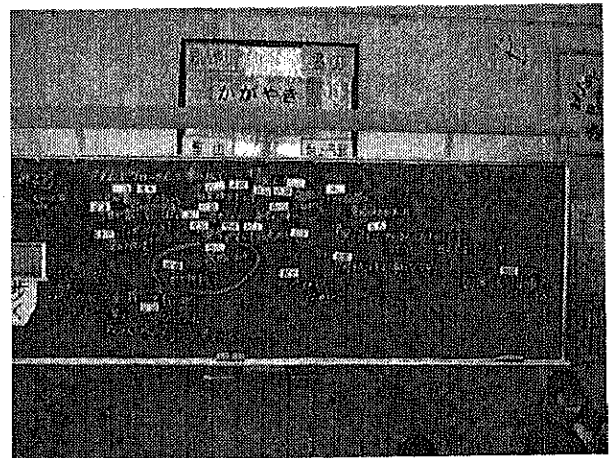
⑨ 女の子たちは、ビニール袋をつ
ないで作ったゴムとびで遊べます。



⑩ ご飯は手で食べます。上手に食
べています。



⑪ 教室のみんなで、頭の上に物をの
せて運ぶ体験をしました。



⑫ みんなの意見をまとめたらこんな
ふうになりました。